

# 風土記の丘の花だより<sup>293</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2025年10月25日)

園内の柿が色づいてきました。カラスがつついたのか、落ちていた柿の実を少しかじってみると、何と甘柿でした。昔は、よその柿をとって食べてみると渋柿で、ペッペッと吐き出したものです。今の子どもはそんな体験もしないで大人になっていくのでしょうか。すこし寂しい気がします。



旧谷山家住宅の庭などでタイワンホトトギスが咲いています。普通はタイワンを付けずにホトトギスと呼ばれていますが、厳密にはちょっと違います。タイワンホトトギスは茎の先の方に花がかたまって咲くのが特徴です。花を見ていると写真のように、ハチみたいな虫が飛んでくる事があります。これはホシホウジャクという昼間に活動するガの仲間です。とても素早く飛び回り、花の蜜を吸います。人に悪さをする虫ではありませんから、怖がったりいじめたりしないでやってくださいね。



もう、名前に冬が付くフユノハナワラビが顔を出しています。これはシダなので、花だよりで紹介するのはおかしいかもしれませんが、そこは広いお心で……。よく見かけるシダとは少し見た目が違います。下の方に葉が広がっていて、細長い茎が一本上に伸びています。そしてその先には花のようなものが付いています。そこで胞子をつくって飛ばすのです。シダですから、花は咲きません。どういう訳か、万葉植物園の遠望台の周りでたくさん見られます。



初夏に真っ白な花を咲かせていたガマズミの実が真っ赤に色づいています。一度食べたことがあります、私の口には合わなかった記憶があります。毒ではありませんから、試食してもるのもいいかもしれませんね。(余り、お勧めしませんが)それにしてもガマズミって変わった名前ですね。語源が諸説あって、はっきりしないそうです。分類も変わり、かつてはスイカズラ科でしたが、今ではガマズミ科になっています。



セイタカアワダチソウの黄色い花が満開です。この写真は前山A 13号墳の墳丘の群生を撮ったものです。ここに限らずこの季節には、どこでもこの黄色い花を見かけます。一昔前は、休耕田に群生し、「害草」のイメージが強く、喘息の原因という濡れ衣まで着せられましたが、今はその勢いは少し収まり、濡れ衣も脱ぐことができました。この花は虫が花粉を運ぶ「虫媒花」、風に花粉を飛ばす「風媒花」ではありません。空の青と、花の黄色のコントラストがとてもきれいですね。

松下